

絶縁状態探査装置 取扱説明書

L I G - 1 0 M



光商工株式会社

目次

1. 特長	1
1.1 I _o 値と、I _{or} 値	... 1
1.2 デジタルフィルタ	... 1
1.3 最大値メモリー機能	... 2
2. 各部の名称と説明	3
2.1 各部の名称	... 3
2.1.1 本体部	... 3
2.1.2 クランプ形（零相）変流器（DM80）部	... 4
2.1.3 電圧コネクター部	... 4
3. 測定方法	5
3.1 測定前の準備	... 5
3.2 LIG-10M の設定	... 6
3.3 電圧コネクターの電路への接続	... 7
3.4 クランプ形（零相）変流器のクランプ	... 9
3.4.1 B種接地線をクランプする場合	... 9
3.4.2 幹線をクランプする場合	... 10
3.5 表示値の選択	... 11

4. その他の機能	12
4.1 試験スイッチ	... 12
4.2 省エネルギーモード切替	... 12
(TIPS)	... 12
5. 仕様	13
5.1 絶縁状態探査装置(LIG-10M)仕様	... 13
6. 外形図	14
6.1 絶縁状態探査装置(LIG-10M)	... 14

1. 特長

本探査装置は、直接接地系低圧電路の絶縁抵抗分に流れる電流 I_{or} (アイ・ゼロ・アール) 値を測定できます。また、 I_{or} 値の他に、容量分と抵抗分の合成値である I_o (アイ・ゼロ) 値の測定もできます。その他、 I_{or} 値・ I_o 値の最大値のメモリー機能、デジタルフィルタ機能を内蔵しており、絶縁不良個所の探査に最適です。

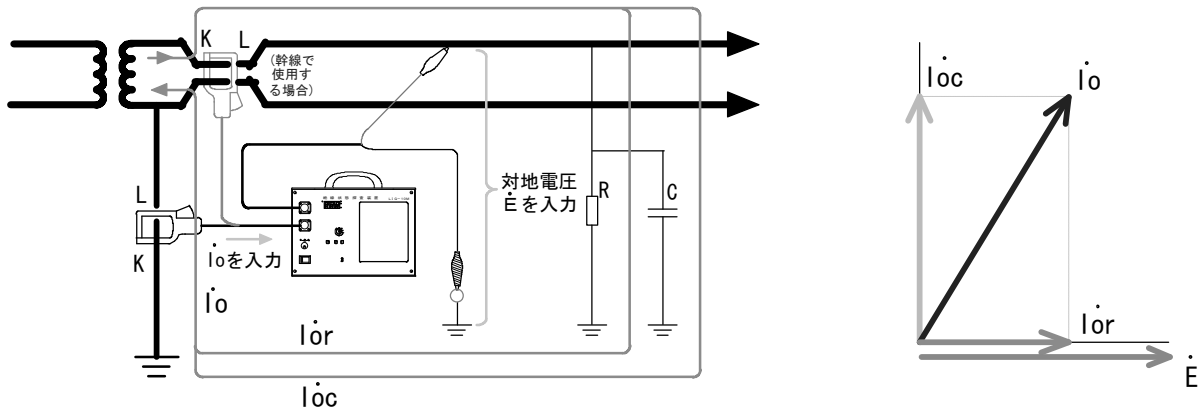
1.1 I_o 値と、 I_{or} 値

I_o 値とは、零相変流器により検出される商用周波の漏れ電流値で、電路対地間の抵抗分に流れる電流と、容量分に流れる電流との合成値です。

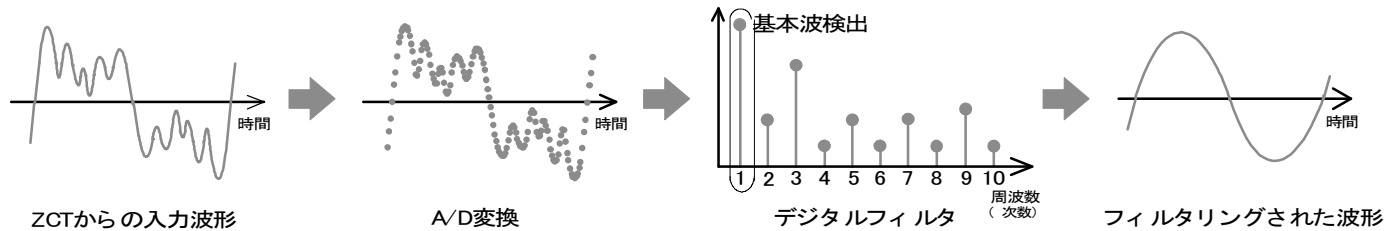
I_{or} 値とは、 I_o 値から、容量分に流れる電流成分を除去した、抵抗分に流れる電流成分です。

絶縁状態探査装置 LIG-10M は、零相変流器により検出した I_o 値の他に電路電圧(E)を検出します。

そして電路電圧(E)を基に、演算により容量分に流れる電流(無効分: I_{oc})を除去した、絶縁抵抗分に流れる電流(有効分: I_{or})を検出して表示します。演算方法は測定する電路の電気方式によって異なるため、測定する電路の電気方式に応じて LIG-10M の「電気方式」切り替えスイッチを設定する必要があります。



1.2 デジタルフィルタ

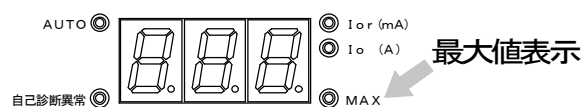


零相変流器により検出された漏れ電流を、パッシブフィルタ、アクティブフィルタで高次調波を減衰させたあと、A/D変換によりデジタル値に変換します。

A/D変換により得られたデジタルデータ値にデジタルフィルタの演算処理を行い、基本波成分のみを検出します。

このデジタルフィルタにより、高調波成分に影響されない安定した測定が行えます。

1.3 最大値メモリー機能



LIG-10M は最大値メモリー機能を有しており、Ior 値の最大値と Io 値の最大値をメモリーできます。表示値は「表示切替」スイッチを押すことで、「AUTO」→「Ior」→「IorMAX」→「Io」→「IoMAX」の順に切り替わります。最大値メモリー機能により、断続的に発生する絶縁不良箇所や、状況が刻々と変化する絶縁不良箇所を特定する事ができます。

2. 各部の名称と説明

2.1 各部の名称

2.1.1 本体部

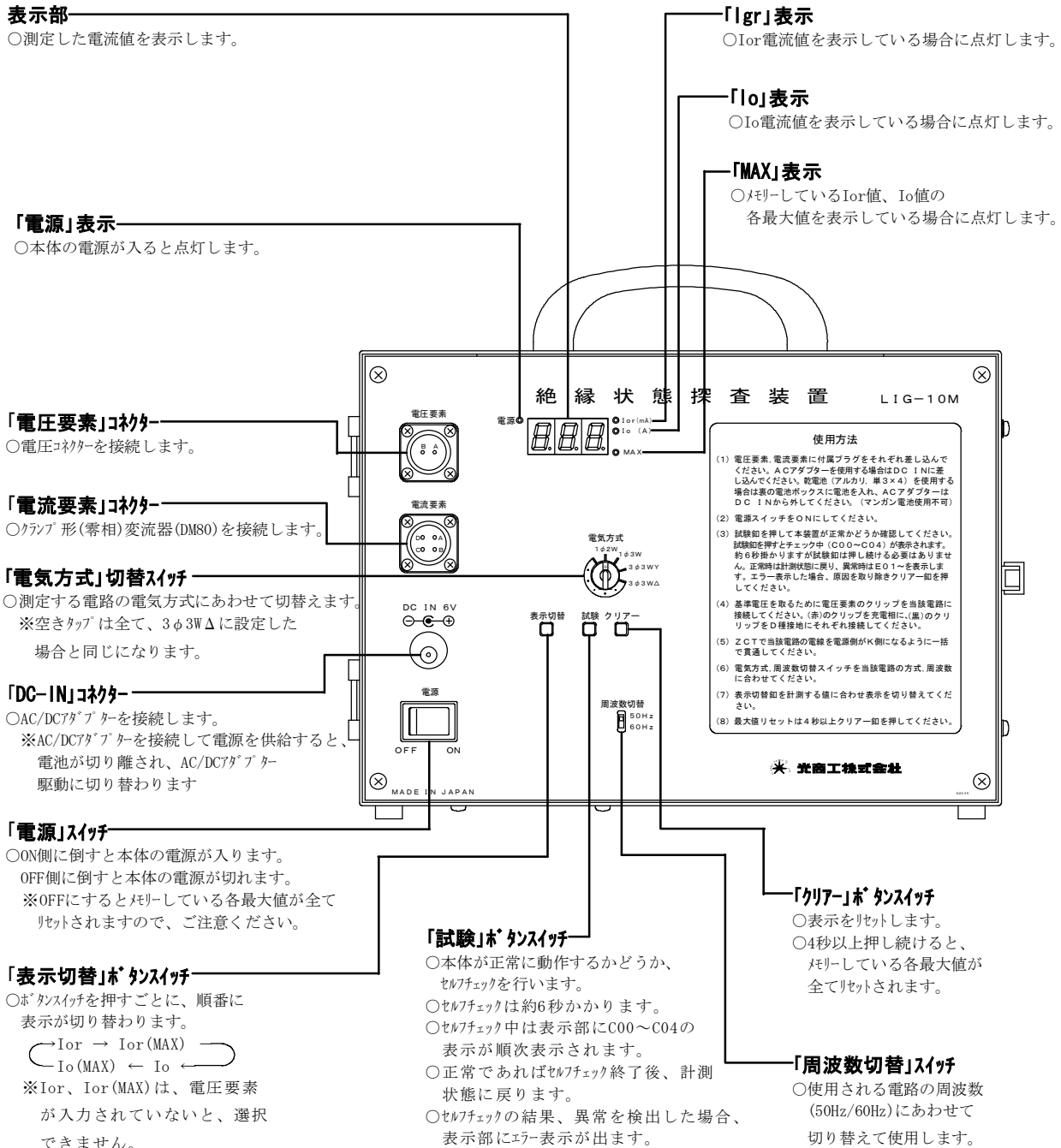


図 2-1 LIG-10M 各部の名称と説明

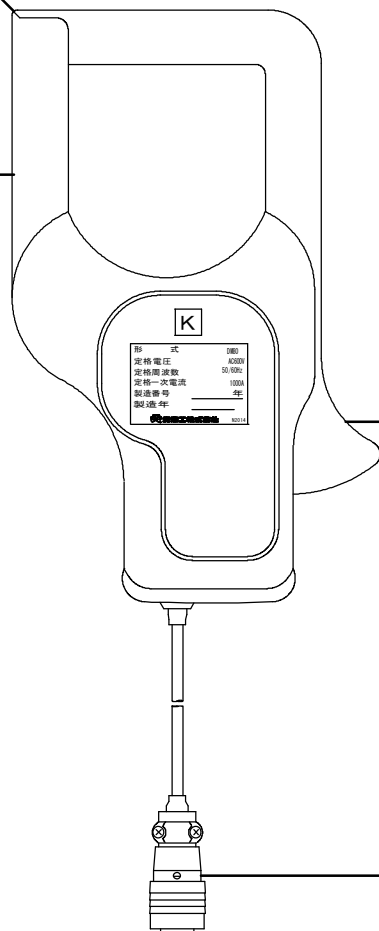
2.1.2 クランプ形(零相)変流器(DM80)部

分割部

分割零相変流器の分割部です。
 ※分割部は精巧にできていますので、
 取り扱いのさいには衝撃や無理な
 力が加わらないようにしてください。

クランプ部

被測定電線をクランプする
 分割零相変流器部です。



トリガー部

クランプ部を開閉させるためのレバーです。
 ※クランプ部の開閉は、必ず
 トリガー部を操作して行って
 ください。
 直接クランプ部を持って開閉
 すると、クランプ部を破損する
 恐れがあります。

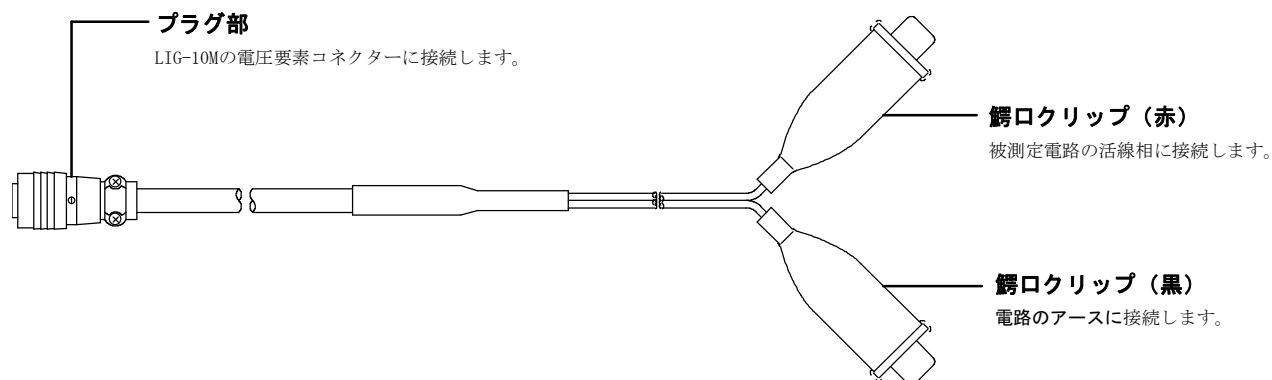
プラグ部

LIG-10Mの電流要素コネクタに接続します。

！ 注意

クランプ部の開閉は、必ずトリガー部をゆっくりと操作して行ってください。 クランプ部を直接持って開閉操作したり、勢いをつけ乱雑にトリガー部を開閉すると、クランプ部を損傷する恐れがあります。

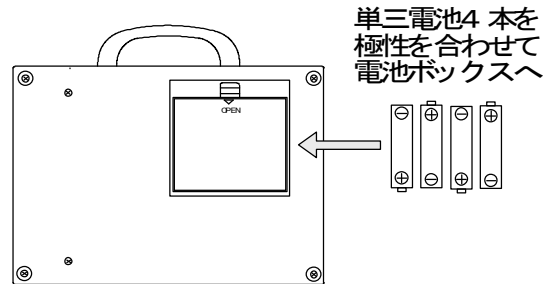
2.1.3 電圧コネクタ一部



3. 測定方法

3.1 測定前の準備

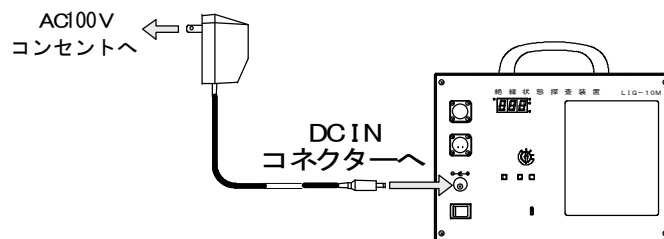
- ① 電池駆動で使用する場合、乾電池(アルカリ単 3×4 本)を絶縁状態探査装置本体裏側の電池ボックスに極性を合わせて入れます。



注意

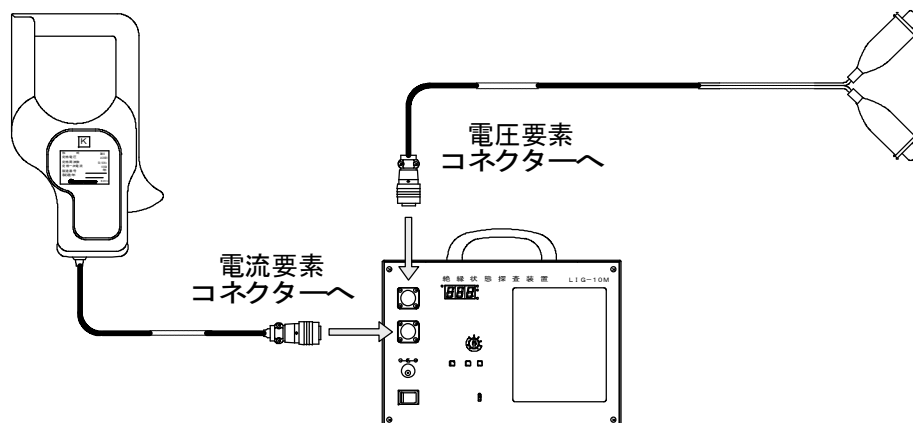
乾電池は必ずアルカリ乾電池をご使用ください。マンガン乾電池は容量の問題で使用できません。

- ② AC/DC アダプター駆動で使用する場合、AC/DC アダプターを絶縁状態探査装置の DC IN コネクターに差し込みます。(DC IN コネクターに AC/DC アダプターを接続すると、電池駆動の回路が切り離され、AC/DC アダプター駆動へと切り替わります)




- ③ 絶縁状態探査装置本体の「電流要素」コネクターに、クランプ形(零相)変流器を接続します。

- ④ 絶縁状態探査装置本体の「電圧要素」コネクターに、電圧コネクターのプラグを接続します。



- ⑤ 「電源」スイッチ  をオンします。

3.2 LIG-10M の設定

周波数切替スイッチ  を電路周波数に合わせます。

注意

ご使用前に必ず「周波数切替」スイッチを設定してください。
周波数切替スイッチの設定に誤りがあると、正しい測定値を表示しません。
また、設定後は、設定を反映させるために必ず一度「クリア」スイッチを押すか、電源を入れ直してください。
これを行わないと設定が反映されず正しい Ior 値を表示しません。

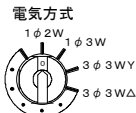

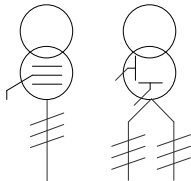
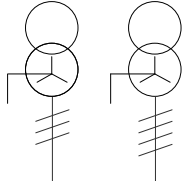
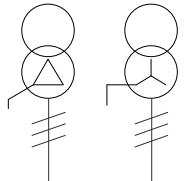
③「電気方式」切り換えスイッチ  を、被測定電路の電気方式に応じて測定する電路の電気方式に合わせて設定します。主な電気方式における設定タップについては、表 2-1 をご参照ください。

表 2-1 「電気方式」切り換えスイッチの設定

電気方式	1 φ 2W	1 φ 3W	3 φ 中性点接地 (主に Y 結線)	3 φ 中性点外接地 (主に Δ 結線)
主なトランス二次結線				
「電気方式」切り換えスイッチの設定方法	1 φ 2W	1 φ 3W	3 φ 3W Y	3 φ 3W Δ

注意

ご使用時には必ず「電気方式」切り換えスイッチを測定する電路の電気方式に合わせて正しく設定してください。
設定が誤っていると、正しい Ior 値を表示しません。
また、設定後は、設定を反映させるために必ず一度「クリア」スイッチを押すか、電源を入れ直してください。
これを行わないと設定が反映されず正しい Ior 値を表示しません。

注意

- スコットトランスをご使用の場合、二次側の単相3線電路の巻き線が絶縁されていれば、「電気方式」切り換えスイッチを「1 φ 3W」に設定して、1 φ 3W 線電路と全く同様に使用できます。
二次側の単相3線電路の巻き線が結線されている場合、LIG-10M で Ior 値を測定することはできません。
(正しい Ior 値を表示することはできません。)
- 3 φ 4W 中性点接地電路の場合、「電気方式」切り換えスイッチを「3 φ 3W Y」に設定してご使用ください。
- 3 φ 3W Y 結線トランスであっても、希に中性点外で接地している電路があります。そのような電路では、「電気方式」切り換えスイッチを「3 φ 3W Δ」に設定してご使用ください。

Io 測定モードでご使用の場合、「電気方式」切り換えスイッチの設定はどこに設定しても表示値とは関係ありません。
従って、どこに設定していても表示される Ior 値は変わりません。

3.3 電圧コネクターの电路への接続

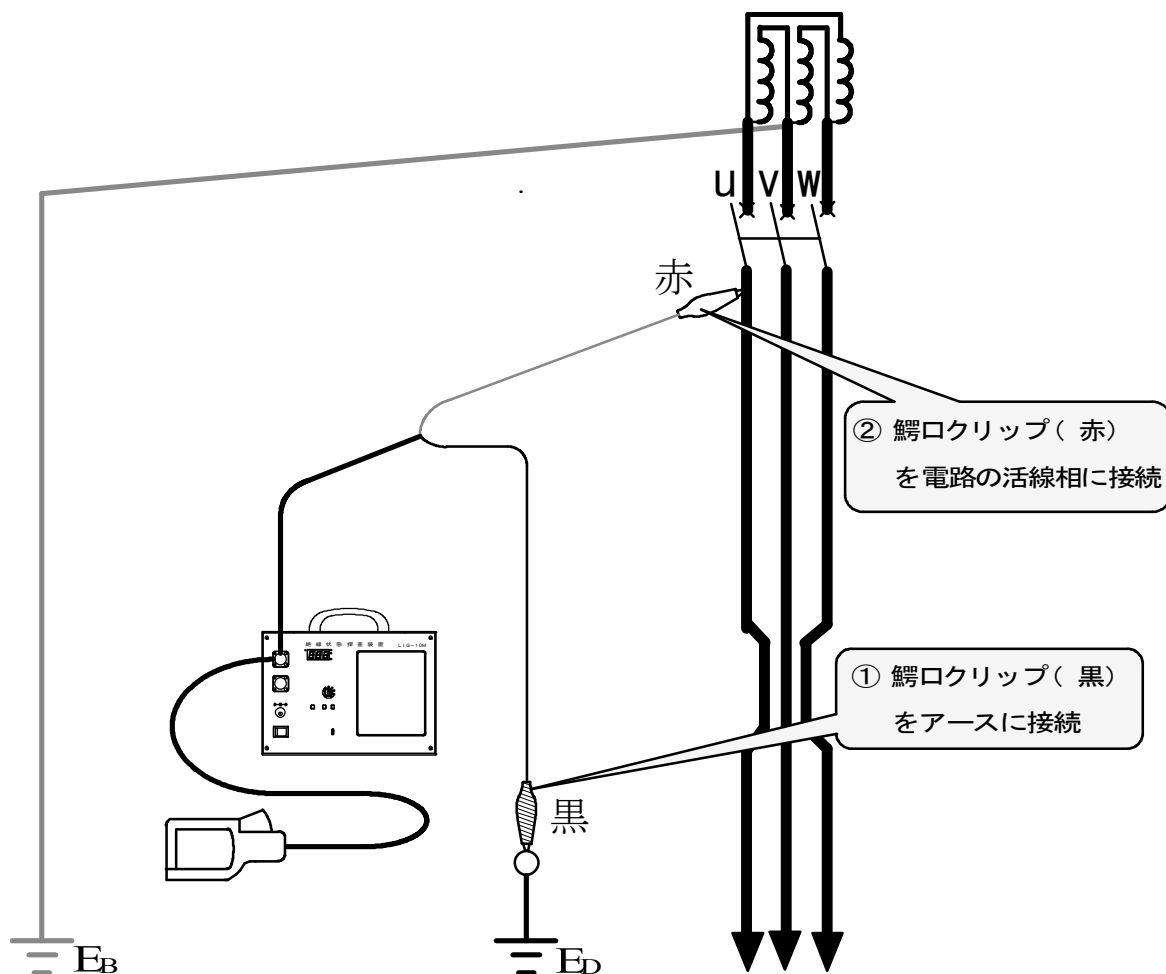


図 3-1 電圧コネクターの配線接続方法

- ① 電圧要素を入力するため、図 3-1 のように電圧コネクターの黒色の鱈口クリップを D 種接地 (近くに適当な D 種接地が無いときは、B 種接地や、電路の接地相 (N 相) で代替可能) に接続します。
- ② 電圧要素を入力するため、図 3-1 のように電圧コネクターの赤色の鱈口クリップを電路の活線相に接続します。

この際、三相 3W Δ 中性点外接地電路での I_{or} 値の測定の際には、接地相に応じて電圧要素の鱈口クリップを表 3-2 に示す相に接続してください。

その他の電路においては、電圧コネクターの赤色の鱈口クリップを活線相のどの相に接続しても構いません。

表 3-2 電圧コネクターの赤色鱈口クリップの配線先

接地相	電圧クリップ (赤) を接続する相
U 相 (R 相)	W 相 (T 相)
V 相 (S 相)	U 相 (R 相)
W 相 (T 相)	V 相 (S 相)

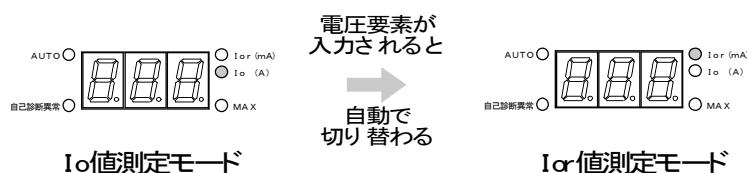
注意

電圧要素の入力配線は、黒色の鱗口クリップをアース側、赤色の鱗口クリップを活線側に、必ず極性を正しく配線してください。配線の極性が誤っていると、正しい Ior 値を表示しません。

注意

三相3W Δ 中性点外接地回路の場合、接地相に応じて電圧要素の鱗口クリップを必ず表 3-2 に示す相に接続してください。接続に誤りがあると、正しい Ior 値を表示しません。

- ③ 電圧要素が入力されると I_o 測定モードから I_{or} 測定モードに自動的に切り替わり、表示部横にある「I_o (mA)」の LED が消灯して「I_{or} (mA)」の LED が点灯します。



I_{or} 値測定の場合は、抵抗分の分離演算のために電圧要素の入力が必要なため「電圧要素」コネクタの接続が必須ですが、I_o 値測定の場合、抵抗分の分離演算を必要としないので、必ずしも絶縁状態探索装置本体の「電圧要素」コネクタに電圧コネクタを接続する必要はありません。

3.4 クランプ形(零相)変流器のクランプ

①測定したい箇所にクランプ形(零相)変流器をクランプします。
クランプする箇所は、接地線、幹線のどちらでも構いませんが、クランプの極性に注意が必要です。

3.4.1 B種接地線をクランプする場合

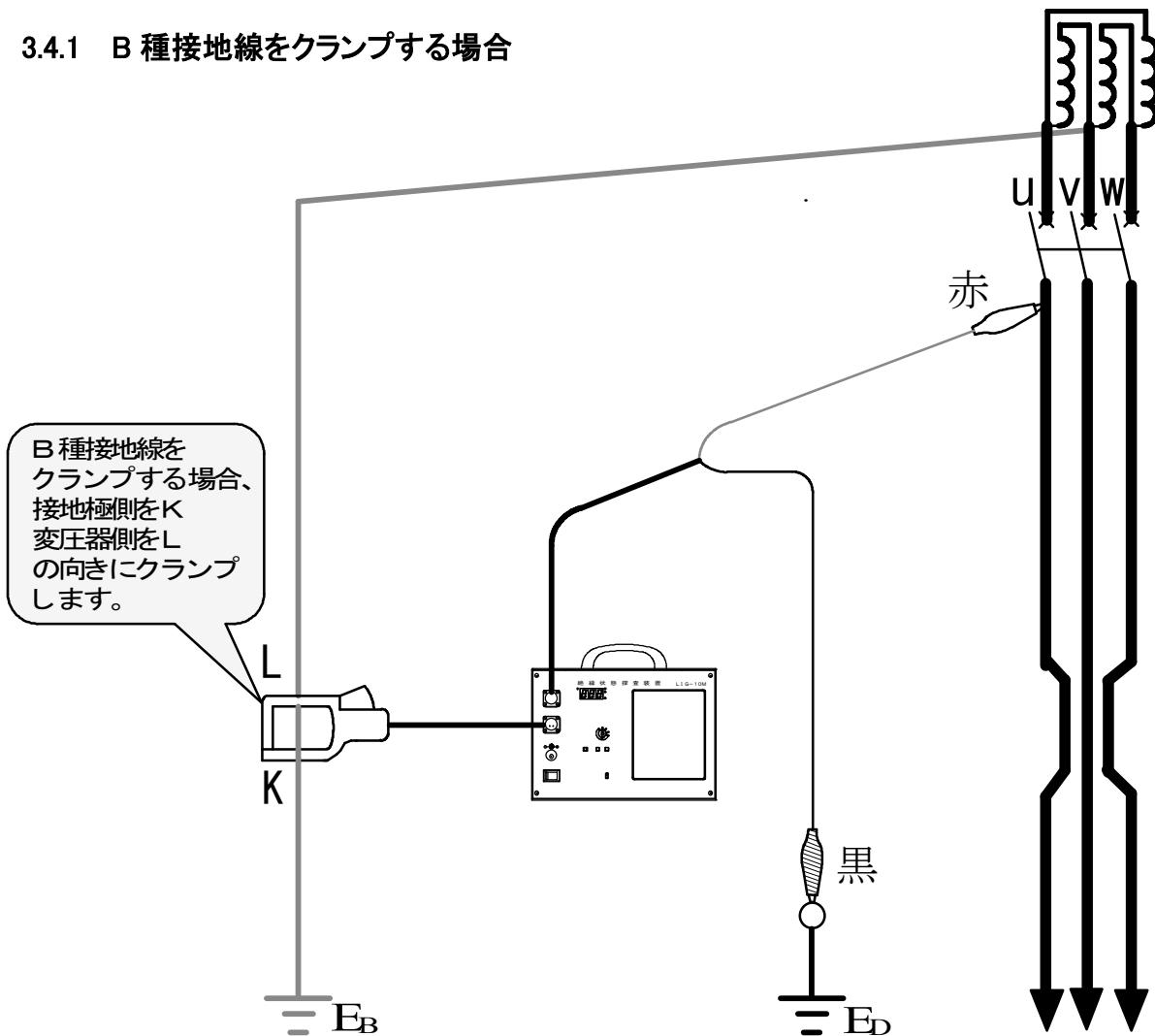


図 3-1 クランプ方法(B種接地線をクランプして測定する場合)

図 3-1 のように接地極側がK、トランス側がLとなるようにクランプします。

注意

B種接地線にクランプする場合、必ず図 3-1 のように接地極側がK、トランス側がLとなるようにクランプしてください。クランプする向きを誤ると、正しい Ior 値を表示しません。

※測定する回路の都合上、どうしてもクランプの極性を合わせられない場合には、電圧要素の赤黒の鱈口クリップの配線極性を逆にして、LIG-10M の見かけ上の極性を合わせてご使用ください。

I_o 値測定の場合、クランプ形(零相)変流器をクランプする向きはどちら向きでも変わりません。従って、電路に対してどちら向きにクランプしても構いません。

3.4.2 幹線をクランプする場合

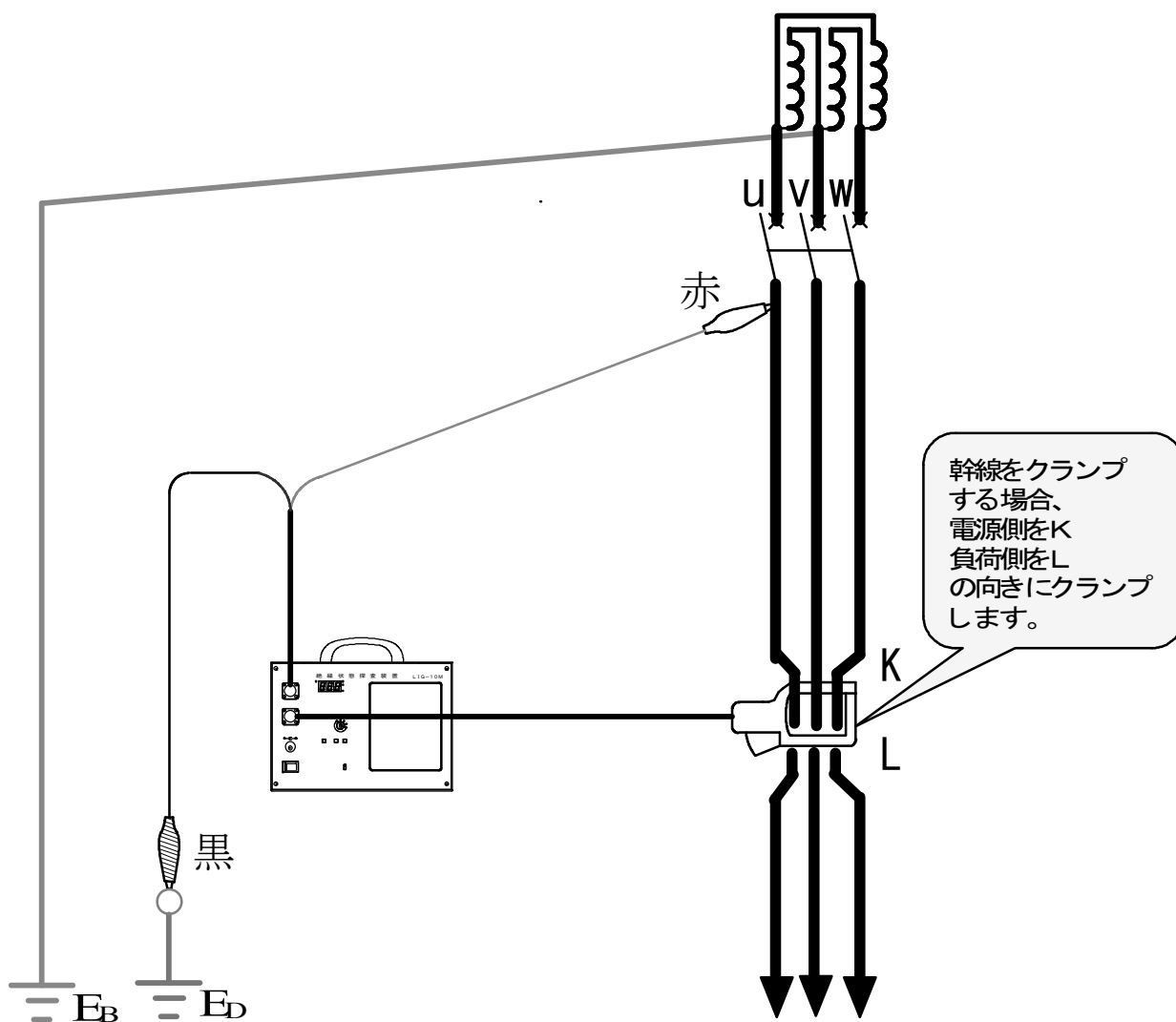


図 3-2 配線方法(幹線をクランプして測定する場合)

図 3-2 のように、電源側がK、負荷側がLとなる向きにクランプします。

注意


幹線にクランプする場合、必ず図 3-2 のように電源側がK、負荷側がLとなるようにクランプしてください。クランプする向きを誤ると、正しい I_{or} 値を表示しません。

注意

幹線をクランプする際には、電力線全部を一括でクランプする必要があります。

I_o 値測定の場合、クランプ型(零相)変流器をクランプする向きはどちら向きでも変わりません。従って、電路に対してどちら向きにクランプしても構いません。

3.5 表示値の選択

①「表示切替」ボタン  を押して、表示したい表示値に切り替えます。

表示値は、表示切り替えスイッチを押す度に図 3-4 のように、表示部の値が切り替わります。

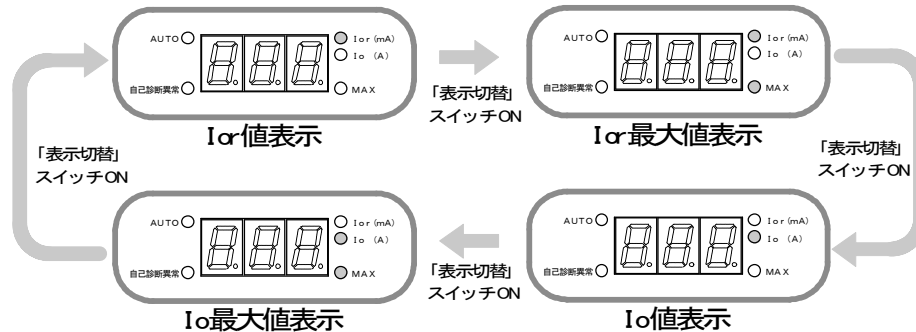


図 3-4 表示切り替え(電圧要素の入力が有る場合)

電圧要素の入力が無い場合には Ior 値の演算ができないため、Ior 値への表示値の切り替えはできず、図 3-5 のように Io 値と Io 最大値の表示切り替えとなります。

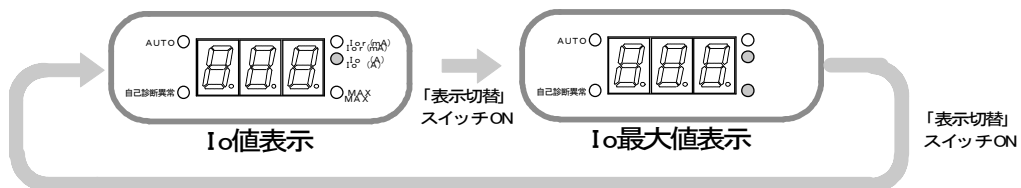


図 3-5 表示切り替え(電圧要素の入力が無い場合)

Ior 値は抵抗分のみに行っている電流値です。
Io 値は抵抗分と容量分を合算した電流値です。

Ior 最大値、Io 最大値は、電源オン時またはクリアスイッチでリセットがかけられた時点から、表示部に表示された Ior 値、Io 値(または表示切り替えスイッチを押すことで表示されたであろう Ior 値、Io 値)の最大値です。

注意

各最大値は「電源」スイッチのオフや、乾電池の容量切れなど、装置の電源が無くなった場合消滅しますのでご注意ください。(操作をしない状態が 5 分続くと省エネルギーモードに入り「表示部」が消灯しますが、省エネルギーモードの場合、各最大値は保持されます。)

4. その他の機能

4.1 「試験」スイッチ



LIG-10Mには、本体のセルフチェック機能があり、「試験」ボタンを押すことにより確認できます。

「試験」ボタンを押すと表示部に「C00」～「C04」までの表示が順次表示され、約6秒間かけてセルフチェックを行います。正常であれば元の計測状態に戻ります。

- ※ もしセルフチェックでエラー表示が出た場合は、LIG-10M本体が故障しており修理が必要です。修理をご依頼の場合は、お近くの営業所にお問い合わせください。

4.2 省エネルギーモード切替

電源ON後、または各スイッチ操作後、操作をしない状態が約5分続くと、自動で「表示部」の表示が消灯し、省エネルギーモードになります。

省エネルギーモードは「表示切替」スイッチを押すことで解除されます。

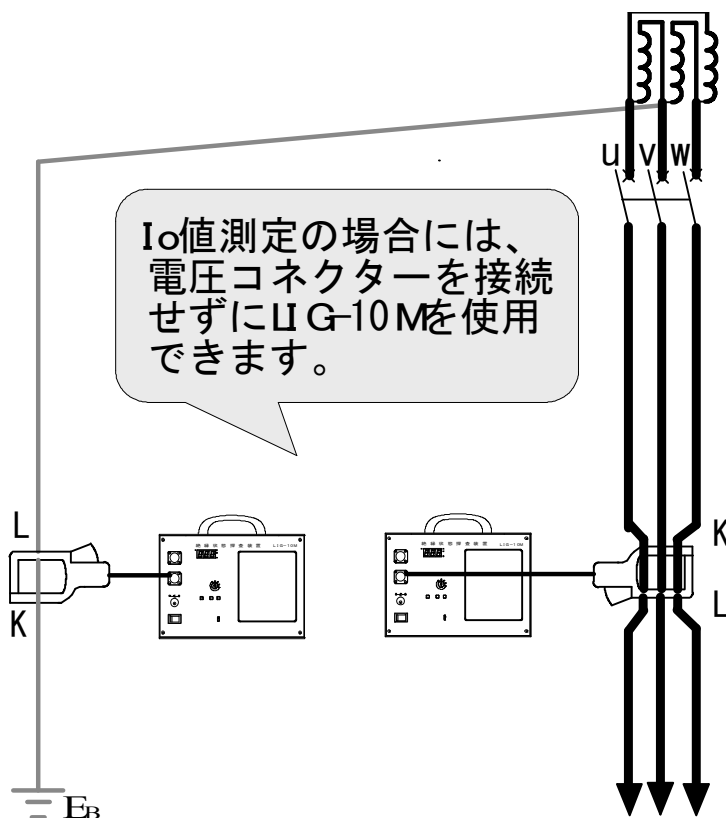
注意

省エネルギーモードに切り替わっても、各最大値は保持されます。

(「電源」スイッチのオフや乾電池の容量切れなど、装置の電源が無くなった場合、各最大値は保持されません。)

TIPS

I_o 値のみの測定の場合には、LIG-10M 本体に電圧コネクタを接続せずに使用できます。



4. 仕様

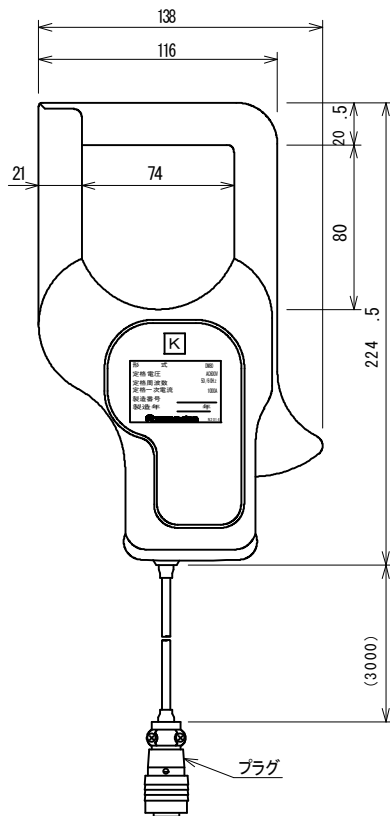
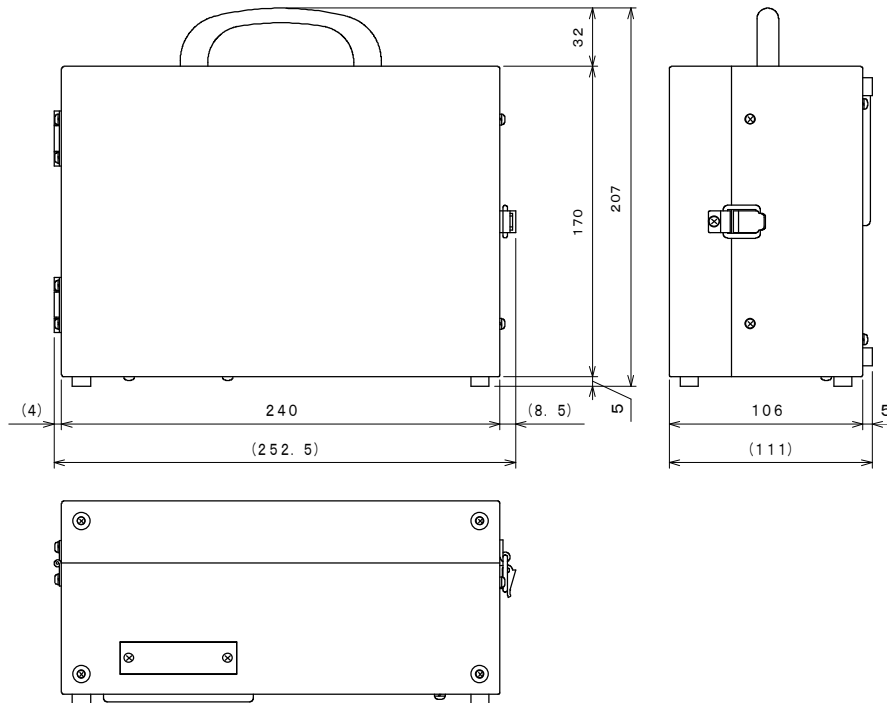
4.1 絶縁状態探査装置(LIG-10M)仕様

絶縁状態(Ior)計測部	
Ior 電流計測範囲	10~999 (mA)
電流計測許容誤差	50mAの電流値において±10%以内
漏電電流(Io)計測部	
Io計測範囲	0.01~2.0 (A)
電流計測許容誤差	0.5Aの電流値において±10%以内
共通項目	
基準電圧信号検出	電路接地相と大地間
電源	DC6V (単3アルカリ乾電池4本) または AC100V (6V、600mA) アダプター
電池寿命	単3アルカリ乾電池使用時 約6時間 アダプター使用時 連続
監視電路周波数	50/60Hz (手動切替)
使用温度範囲	-10℃~+50℃
表示	電源表示 :LED (赤) 表示値種類:LED (赤) Ior、Io及び各Max(最大値) 異常表示 :計測に異常があったとき、計測表示部にエラー表示を行います。 ※計測表示は手動切替
最大値メモリー機能	※各最大値は「電源」スイッチのオフや、乾電池の電池切れなど、装置の電源が無くなった場合消滅します。(省エネルギーモードの場合、各最大値は保持されます。)
省エネルギーモード	電源ON後、または各スイッチ操作後、操作をしない状態が約5分続くと、自動で計測表示が消灯し、省エネルギーモードとなります。 省エネルギーモードは表示切り換えスイッチ操作をすると解除されます。
自己診断機能	「試験」ボタンを押すことにより表示部「C00」~「C04」までの表示が順次表示され、約6秒間セルフチェックを行います。正常であれば元の計測状態に戻ります。 ※もしセルフチェックでエラー表示が出た場合、本体の故障ですので、弊社までご連絡ください。
商用周波耐電圧	AC1500V 1分間 (電気回路一括と外箱間)
重量	探査装置本体(LIG-10M):約2.7kg クランプ型(零相)変流器(DM80):約0.6kg
付属品	電圧コネクター×1 ACアダプター×1 収納ケース(DM80、電圧コネクター、ACアダプターが収納できます。)

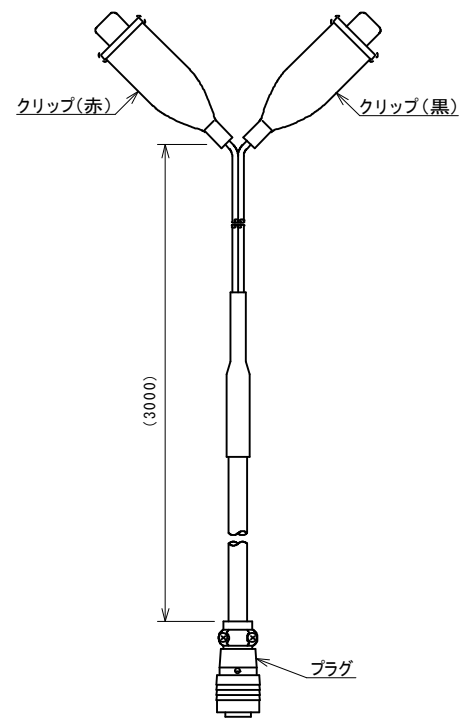
5. 外形図

8.18 絶縁状態探査装置(LIG-10M)

絶縁状態探査装置(LIG-10M)



クランプ形(零相)変流器(DM80)



電圧コネクター



光商工株式会社

本社	〒104-0061 東京都中央区銀座 7-4-14 (光ビル)	TEL 03-3573-1362	FAX 03-3572-0149
大阪営業所	〒530-0047 大阪市北区西天満 6-8-7 (電子会館)	TEL 06-6364-7881	FAX 06-6365-8936
名古屋営業所	〒460-0008 名古屋市中区栄 4-3-26 (昭和ビル)	TEL 052-241-9421	FAX 052-251-9228
福岡営業所	〒810-0001 福岡市中央区天神 4-4-24 (新光ビル)	TEL 092-781-0771	FAX 092-714-0852
茨城工場	〒306-0204 茨城古河市下大野 2000	TEL 0280-92-0355	FAX 0280-92-3709

URL : <http://www.hikari-gr.co.jp>

●お断りなしに、外観、仕様などの一部を変更する事がありますので、ご了承ください。